

進取の気性に 富んだ元気な 村づくり

福島県の阿武隈山系の中南部地域に位置する玉川村は、都市近郊という立地条件のほか、中央部に福島空港を有する福島県の空の玄関口でもあり、東西に高規格道路あぶくま高原道路が横断し、東北自動車道と磐越自動車道につながっている交通の利便性に優れた村です。

今、地方分権の進展に伴い、地方自治体には、これまで以上に住民ニーズにあった行政サービスの展開と創意工夫による個性あふれるまちづくりが求められています。

玉川村は、新たな政策として、福島県内初となる「健康の駅たまかわ」を開所し、住民交流拠点の場として地域住民の

健康増進を図り、健康寿命の推進を目指します。また、少子化対策、子育て支援、教育振興や産業振興にも力を入れ、多くの人が玉川村に住みたいと思う村づくりに努めているところであります。

これからも“住民との協働”を基本理念に、進取の気性に富んだ活力ある村、魅力ある村づくりを進めてまいります。

この要覧は、玉川村の今の姿を分かりやすく表したものです。皆さんが玉川村の魅力を知っていただく一助となれば幸いです。

玉川村長 石森 春男





contents

2	―	【未来へつながる村づくり】
4	―	伝統文化を伝える「南須釜の念仏踊り」
6	―	特産品を生み出す道の駅「たまかわ」
8	―	次世代を育む「子育て支援事業」
10	―	◎玉川村の四季
12	―	◎玉川村の歴史
14	―	【第5次玉川村振興計画】
16	―	①環境にやさしく、快適で安心して暮らせる村づくり
18	―	②共に支えあい、いきいき暮らせる村づくり
20	―	③豊かな人間性、郷土を愛する心を育む村づくり
22	―	④魅力的で活力に満ちた村づくり
24	―	⑤時代の変化に的確に対応できる村づくり
25	―	行政と議会
26	―	イラストマップ
28	―	たまかわ資料編



あす 未来へ つながる 村づくり

遙か昔から脈々と受け継がれてきた

玉川村での暮らし。それはまるで

リレー走者がつなぐバトンのように、

先人たちから私たちへと

手渡されてきた大切な宝物です。

この村の豊かな自然を、

伝統文化を、人々の営みを…。

これまでも、これから

途絶えることなく次の世代へ。



未来へつながる村づくり。

伝統文化を伝え、特産品を生み出し、

次の世代を育む…。

人と人がつながることで生まれる

夢と希望をチカラに変えて。

人と地域がつながることで広がる

無限の可能性を信じて。

未来へつながる村づくり。

玉川村での営みを、人々が

自信と誇りを持って語れるように――。



EPISODE
1

伝統文化を伝える
「南須釜の念仏踊り」



EPISODE
2

特産品を生み出す
道の駅「たまかわ」



EPISODE
3

次世代を育む
「子育て支援事業」



伝統文化を伝える

「南須釜の念仏踊り」

江戸時代から

受け継がれてきた伝統の舞い

本村のほぼ中央に位置する南須釜地区。この山あいの地域に江戸時代から続く民俗芸能があります。春と夏の年2回、東福寺境内で行われる「南須釜の念仏踊り」です。

地区の伝承によると、江戸初期の慶安年間（1648〜51）、16歳以下の男女が新盆の家々をまわり、仏を供養するために踊ったのが始まりとされています。

慶安年間といえは徳川家光が將軍だった時代。その頃から代々、受け継がれてきたのかと思うと感慨深いものがありますが、その間、変遷がなかったわけではありません。明治の

後半から昭和初期にかけて一時、途絶えた時期があったのです。

それを昭和27年（1952）に復活させたのが明治14年（1881）に生まれ、12歳のときから踊りに参加していた大野ケサさん（故人）です。

現在の踊りはケサさんの記憶を基に再現されたもので、その後「南須釜念仏踊り保存会」によって継承され、昭和50年（1975）には県の重要無形民俗文化財に、同53年（1978）には文化庁の民俗文化財に、平成19年（2007）には福島遺産百選に認定されています。





踊り子たちの衣装は春は振袖、夏は浴衣の裾を履までたくしあげ、赤い蹴出しや脚絆、たすき、手甲、白足袋、草履を身に付けます。頭にかぶる花笠には花や切り紙を飾り、手には白扇子2本と緩竹2本を持ち、踊りに合わせて使い分けます。

ふるさとの財産として 未来へつなげたい

この念仏踊りが行われるのは、4月3日（春の大寺薬師祭）と8月14日（お盆）の午前中。東福寺の境内を舞台に、南須釜地区の5歳から12歳までの少女約20人によって奉納されます。

現在、保存会に伝わる曲目は「小夜の中山」から「下妻」まで全9曲。華やかな衣装を身にまとった少女たちが、役員の方たちが奏でる笛や鉦（かね）、歌に合わせて「立ち踊り」と「座踊り」を披露します。

全曲、踊り終わるのに約25分。全員が揃って踊るには日々の練習が欠かせませんが、保存会では月に1回、地区の集会所を利用して合同練習を行っています。

踊りを指導するのはかつての経験者や地域の人たち。まだあどけなさが残る子どもたちに全9曲の振り付けを手取り足取り教え、一人前の踊り子として育てていきます。

そしてやっとうまく踊れるようになった頃、その子たちは卒業の時期を迎え、また新しい子どもたちが入ってくる。この世代交代を繰り返しながら、念仏踊りは代々、受け継がれてきたのです。そしてこれからも、ふるさとの財産として踊り継がれていきます。

《つながる想い》



須釜小学校6年
吉村 佑華さん

初めて踊ったのは幼稚園のとき。私の年代は同級生が6人いたので練習も楽しかったし、踊りを通して6人の絆が深まったような気がします。来年は中学生になるので踊るのは今年が最後ですが、私たちが抜けてもずっと続いてほしいです。

南須釜念仏踊り保存会会長
大野 福一さん

この踊りは、地域のみなさんと親御さんの協力なしには成り立ちません。会としては感謝の一言です。今後は少子化による後継者不足が懸念されますが、先人たちが残してくれた大切な伝統文化。次の世代にもしっかり引き継いでいきたいです。



未来へ
つながる
村づくり

EPISODE
2



特産品を生み出す

道の駅「たまかわ」

始まりは地の利を活かした適地適作栽培

標高250m〜650mの平地から丘陵地まである本村。この地の利を活かせば米・野菜・果物と何でも採れるため、長い間、特産品の絞り込みができていました。

しかし、平成に入ると消費者ニーズが多様化。新鮮・多品種・少量販売の直売所が見直され、何でも採れる豊富な品揃えが「売り」になる時代がやってきました。

もともと耕作面積の少ない丘陵地では、さまざまな作物を二毛作や三毛作で栽培してきた実績があります。しかも、本村の標高差を活かせば地区ごとに収穫期をずらして長く出荷することも可能です。

本村では村を挙げて耕作地の再編を行い、豊富な品揃えにプラスしてそ

の土地に合った特色ある作物、付加価値の高い作物を作って売る”攻めの農業”へと転換します。今から20年以上前のことです。

こうした中で生まれたのが「さるなし」(1個でレモン10個分のビタミンCを含むキウイの原種)や「しほりトマト」(水を与えない特殊農法で育てた高糖度のトマト)などの特産品で、これらを県内はもちろん、関東方面にも売り込むために平成8年(1996)、第3セクターの直売所としてオープンしたのが「玉川村生産物直売所」です。この施設は平成18年(2006)に「道の駅たまかわ」として登録され、通称「こぶしの里」として県内外の人々に親しまれています。





平成18年(2006)には「しほりトマト100%ジュース」が「ふくしま特産品コンクール」で県知事賞を、平成25年(2013)には「さるなし100%ジュース」が「ふくしまおいしい大賞」を受賞しています。

消費者と生産者をつなぎ地域と地域を結ぶ

オープン当初は珍しかったことも手伝い、順調に売上を伸ばして行きますが、近隣に同じような直売所ができて始めると単に美味しい、珍しいだけでは競合店には勝てないという危機感が生まれます。

そこで新たな試みとして始めたのが、本村ならではの特産品と消費者ニーズを活かした加工品づくりで、「さるなしドリンク」を皮切りに、ワインやジュースなどの飲み物からジャムやお菓子、調味料や入浴剤に至るまであらゆるものが「こぶしの里」から生まれています。

中でも「しほりトマト100%ジュース」は若いお母さんの意見から生まれたもので、赤ちゃんでも飲めるよう、塩分や防腐剤を使わず、哺乳瓶の吸い口を通るささりとしたジュースになっています。

しかも、1本1本生産者の名前入りなので、消費者にとっては安心感を、生産者にとってはやり甲斐をもたらす特産品として人気を集めています。

このように本村の農業を活性化させ、消費者と生産者をつなぐ窓口として「こぶしの里」がオープンして18年。ここでしか買えない充実した品揃えが支持され、人口70000人程の村に年間20万人の買物客が訪れる県内屈指の直売所へと成長しました。

そしてこれからは、物産展などによる販路開拓や観光農園やそば打ち体験などの交流事業を進め、地域と地域をつなぐ情報発信基地を目標に、今日もスタッフは全国を駆け回っています。



「空の駅たまかわ・福島空港店」など姉妹店もあり、特産品の販路は県内外に拡大しています。



《つながる想い》



しほりトマト農家
小針 満喜子 さん

トマトを納品に行くと、お客さんが「この前のトマト美味しかったよ」と言ってくれて。自分の名前が入った商品が評価されると嬉しいし、次はもっと美味しいものを！とやる気が湧いてきます。お客さんの生の声は農家にとって励みになります。

道の駅たまかわ(生産物直売所こぶしの里)
駅長 穂積 俊一 さん

もともと農家の利益を上げるために設立した直売所なので、消費者ニーズなどの情報は惜しみ無く提供します。その情報を基に付加価値の高いもの、他にはないものを自信を持ってたくさん作ってください。私たちが自信を持ってたくさん売ります。





「すくすくクラブ」で毎回出されるおやつは、「食生活改善推進委員会」の方たちがボランティアで手作りしています。「今日は何のおやつかな？」と子どもたちは毎回楽しみにしています。

次世代を育む

未来へ
つながる
村づくり

EPISODE
3



「子育て支援事業」

就学前の親子を支援する「すくすくクラブ」

本村の近年の出生率(5.9)は福島県の平均(7.0)よりやや低く、高齢者数は増加傾向にあるため、このままでは少子高齢化は進行していくものと思われま

す。そこで平成22年(2010)3月に「玉川村次世代育成支援行動計画」を策定。住民が安心して子どもを産み、育てることができるよう、緊急時の子ども預かり事業や延長保育、乳幼児相談会や放課後児童クラブ、ボランティアによる子ども見守り隊や読み聞かせの会など、住民と一緒にさまざまな子育て支援事業を展開しています。中でも孤立しがちな就学前の子ど

もを持つ親御さんたちに好評なのが、玉川村保健センターで月に1回(約2時間/自由参加)行われている「すくすくクラブ」です。

この事業は0歳から就学前の子どもを持つ親子が互いに交流することを目的に、親子遊びや水遊び、クリスマス会などのメインプログラムの他、親子で自由に遊ぶフリータイムやおやつタイム、保健師や管理栄養士による子育て相談なども随時行っています。

撮影に伺った日は読み聞かせボランティアによるわらべ歌遊びが披露され、親子で楽しいひとときを過ごしました。



元気いっぱい「わくわくらんどたまかわ」

平成23年(2011)3月に発生した東日本大震災と原発事故は、福島県に甚大な被害をもたらしました。

中でも本村では、原発事故による放射能汚染は居住制限地域には指定されなかったものの、健康への不安が危惧され、除染作業が早急の課題になりました。

現在は除染作業が進んでいるので、年間被ばく線量もほとんどの地域で1mSv以下(健康被害はないと言われる基準値)で推移し、日常を取り戻しつつあります。

しかし、放射線による健康被害は未解明な部分が多く、事故当初は子どもの外遊びを控える親御さんの姿が見受けられました。



この日は「すがま幼稚園」の子どもたちが保育士さんと一緒に「わくわくらんどたまかわ」に遊びに来ていました。遊具を使って飛び跳ねたり、おもちゃで遊んだり。この施設は村外の子どもと保護者にも有料(1人100円)で開放しています。

そこで外遊びができないぶん、室内遊具を使って元気いっぱい体を動かしてもらおうと、平成24年(2012)10月に福島空港ターミナルビル内にオープンしたのが「わくわくらんどたまかわ」です。

この施設は「福島県安心こども基金特別対策事業」の補助金を受け、本村が設置し、福島空港ビル(株)に業務委託したもので、村内に居住する0歳から小学2年までの子どもと保護者であれば無料で利用できます。

子どもたちの元気な姿は村の宝です。この子どもたちが健やかに育つよう、これからも官民一体となって子育て支援に全力で取り組んでいきます。

《つながる想い》



「すくすくクラブ」に参加していた
双里 美智子さん 和香那ちゃん(次女)



長女が生まれたときから参加しているのですが、知り合いもない玉川に越して来たばかりだったので「すくすくクラブ」があって助かりました。悩みを相談できるママ友もできるし、同年代の子と遊ばせる機会にもなるし。毎回楽しみにしています。

読み聞かせボランティアの会
「おはなしクックちゃん」
会長 鈴木 和子さん 添田 幸子さん
(写真右) (写真左)



平成16年(2004)の設立以来、幼稚園やクックちゃん文庫などで読み聞かせを行っています。現在、会員は15人。みんな子育てを終えた世代なので、子どもたちや若いお母さんたちから毎回、元気をもらっています。少しでも子育てのお役に立てたら嬉しいです。



四季

の

四

季

t a m a k a w a v i l l a g e

四季折々に表情を変える豊かな自然
季節の移ろいを愛で、自然の恵みに感謝



南須釜の念仏踊り

毎年行われる南須釜地区の伝統行事。



金毘羅桜

中地区にある太さ4m50cm、高さ13mの紅しだれ桜。

金 毘羅桜の蕾が赤みをおびる頃、玉川の春は足早にやって来ます。入学式を前に少し緊張きみの旗持ち登校の子どもたち。地域の人々に見守られ、希望に満ちた学校生活をスタートさせます。

「玉川村の春」

東 野の清流が青葉に覆われる頃、玉川の夏は一気にやって来ます。鮮やかな衣装を身にまとい、神妙な面持ちで舞う少女たち。蝉時雨が降り注ぐ中、念仏踊りの笛や鉦の音が境内に響き渡ります。

「玉川村の夏」



東野の清流

「ふくしまの音30景」にも選ばれている四辻新田地区の清流。



旗持ち登校 | 入学式の朝に行われる川辺地区の伝統行事。



秋

玉川村

f o u r s e a s o n s



やっチャ小屋

毎年、1月11日に山小屋地区、1月14日に南須釜地区で行われる小正月の伝統行事。



平鉄踊り

毎年10月の第1又は第2日曜日に小高・南須釜・北須釜・山小屋の4地区で行われる伝統行事。

稲 穂が黄金色に染まる頃、玉川の秋はゆっくりりやっつて来ます。豊作への感謝と祈りを込めた伝統の舞い。厳かに、ときに華やかに響く笛や太鼓の音。里の秋はその余韻とともに深まっていきます。

「玉川村の秋」



乙字ケ滝

「日本の滝100選」にも選ばれている松尾芭蕉ゆかりの滝。

乙 字ケ滝に木枯らしが吹く頃、玉川の冬は静かにやっつて来ます。年が明け、正月行事を締めくくるやっチャ小屋。人々のはしめ縄や門松とともに火を放ち、一年の無病息災と五穀豊穡を祈ります。

「玉川村の冬」



三匹獅子舞

毎年10月の第1日曜日に南須釜・北須釜の2地区で行われる伝統行事。



浦安の舞

毎年10月の第1又は第2日曜日に小高、10月3日に川辺の2地区で行われる伝統行事。



tamakawa village history

玉川村の歴史

悠久のときを超えて
今に伝わる歴史遺産の数々
先人の想いととも次世代へ

村の西部を流れる阿武隈川。この流域には旧石器時代から奈良・平安時代にかけての生活痕跡が数多く発掘され、その出土品からこの地に根付いた人々の営みを垣間見ることが出来ます。

鎌倉時代に入ると石川地方を領有していた豪族「石川氏」の支配下となり、江戸時代には会津領や白河領、幕府領、越後高田領と領主が次々に変わり、時代の波に翻弄され続けます。

その後、明治2年から同5年までは白河県に、同5年4月からは磐前県に、同9年8月からは福島県に属するようになります。

そして明治22年、市町村制度が実施されると村の西部が泉村に、東部が須釜村となり、昭和30年、市町村合併促進法により泉村と須釜村が合併して現在の「玉川村」が誕生します。



川辺八幡神社の本殿【県指定重要文化財】

かわべはちまんじんじやのほんでん

起源は平安時代までさかのぼり、その後、石川氏の氏神として信仰を集めた由緒ある神社です。現在の社殿は江戸初期に建立されたもので、屋根を支える桁の彫刻などは見るものを圧倒する美しさです。



玉川村の歴史

tamakawa village history



巖峯寺の石造五輪塔【国指定重要文化財】

がんほうじのせきぞうごりんとう

石川氏ゆかりの領主・源基光のために治承5年（1181）に建立された五輪塔。残念ながら宝珠と請花部分は失われ、現在残っているのは笠屋根と塔身、基礎のみですが、国内では3番目に古い五輪塔として知られています。



宮ノ前古墳【県指定史跡】

みやのまえこふん

古墳時代後期の古墳で、墳丘はすでに原形を止めていませんが、横穴式石室の一部が残っています。石室内部は極めて精巧な切石によって構成され、当時すでに権力者がいたことを物語っています。



東福寺の舍利石塔【国指定史跡】

とうふくじのしゃりせきとう

徳一上人ゆかりの東福寺境内にある高さ180cmの舍利石塔。宝珠と露盤を置いた屋蓋と塔身、台座からなり、扉の内部には舍利が納められています。鎌倉時代の弥勒浄土往来の思想を伝える貴重な史跡です。



あ す

未来へつながる村づくり “元気”なたまかわ

第5次玉川村振興計画では
「住民との協働による、自律の村づくり」を
基本理念に、本村がより暮らしやすく、
自律した村として持続的に発展できるよう、
そしてまた村民の誰もがこの村でいきいきと生活し、
充実感や幸福感を実感しながら暮らせる
“元気”なたまかわを目指します。

CONCEPT
1 | 環境にやさしく、快適で安心して暮らせる村づくり

CONCEPT
2 | 共に支えあい、いきいき暮らせる村づくり

CONCEPT
3 | 豊かな人間性、郷土を愛する心を育む村づくり

CONCEPT
4 | 魅力的で活力に満ちた村づくり

CONCEPT
5 | 時代の変化に的確に対応できる村づくり



環境にやさしく、 快適で安心して暮らせる村づくり



豊かな自然環境と調和しながら
誰もが安心して快適に
暮らせる村を目指します

緑

と水が織り成す豊かな自然は、本村の財産です。この恵まれた環境を守り、伝えていくためにもゴミの減量化やリサイクルの促進、新エネルギーの導入など環境にやさしい循環型社会の形成を目指すとともに、快適な水環境の創造や環境教育などにも力を入れ、自然環境の保全と活用に努めます。

また、本村の発展と自然環境が調和した秩序ある土地利用を進めるとともに、生活にうるおいを与える景観保全や形成を進め、美しく、住みよい村づくりを目指します。

快適性や利便性の向上は、定住人口の増加や産業振興に欠かせません。幹線道路や生活道路の維持・改良はもちろん、福島空港やあぶくま高原道路を利活用した本村ならではの道路網・交通体系を整備するとともに、快適な暮らしを支える上下水道や公園・緑地、住宅環境の整備に努めます。

また、誰もが安心して暮らせる地域社会を維持・形成していきけるよう、防災や消防・救急体制を充実させるとともに、防犯や交通安全、消費生活対策にも力を入れていきます。



福島空港



あぶくま高原道路



花いっぱい運動(国道118号沿線)

村民参加の村づくり

人々に安らぎとうるおいを与える 花いっぱい運動

「竜崎老人クラブ長寿会&ひまわりクラブ」のみなさん

幹線道路を通るドライバーや歩行者に少しでも安らぎとうるおいを与えたいと、今から20年以上前に官民一体となって始まった「花いっぱい運動」。毎年、6月に行われる苗の植え付けは、地域の老人クラブや各種団体がそれぞれ担当区域を決めて行っています。

中でも国道118号沿いに位置する神ノ前地区と原作田地区を担当しているのは、「竜崎老人クラブ長寿会」と「ひまわりクラブ」のみなさん。「真夏の草むしりや水やり、秋の後片付けは大変だけど、自分で植えると成長が楽しみで。ここを通る人にわぁきれい！と眺めてもらえれば…。その一心で毎年参加しています」とこの日は3800本のサルビアの苗などを一つひとつ丁寧に植えていました。



地域の子どもやお年寄り 地域住民が一丸となって見守る

「南須釜・愛のパトロール隊」のみなさん

地域の子どもたちは地域の人々が愛を持って見守ろうと、平成17年に住民による住民のための防犯組織として結成されたのが「南須釜・愛のパトロール隊」です。

主な活動は地区内の見回りと声掛け。通学路を散歩しながら、農作業をしながら…と各自が日常生活の中で無理なく、自主的に見守っていくのをモットーにしています。「会には揃いの帽子があるので、散歩や農作業に出掛けるときはその帽子をかぶるようにしています。そうすると子どもたちが一目でパトロール隊の人だと分かるので安心感があるし、犯罪者にとっては抑止力になる。今後はお年寄りの見守りにも力を入れていきたい」と地域の安全・安心に意欲を燃やすみなさんでした。



消防団の放水訓練



河川の水防訓練



用水路の維持管理作業

共に支えあい、 いきいき暮らせる村づくり



**住民の協力を得ながら
保健・医療・福祉サービスが
充実した村を目指します**

誰

もが住み慣れた地域で、生涯にわたっていきいきと安心して暮らしたい。この願いを叶えるために、本村では住民同士が共に支え合う福祉社会の実現を目指すとともに、高齢者や障がい者福祉、児童福祉や子育て支援などをさらに充実させ、この村に暮らす全ての人が生きる喜びや幸せを感じられるような村づくりを目指します。

また、日本の少子高齢化や人口減少、経済成長の鈍化が課題になっている今、住民の社会保障制度に対する関心は年々、高まっています。本村では全ての住民が健康で文化的な暮らしを享受できるよう、社会保障制度の適正な運用と住民理解の浸透に努めます。

65歳以上の親族がいる世帯が全体の約半数を占める本村においては、住民の健康づくりを増進させ、いかに健康寿命を伸ばすかが大きな課題です。保健センターに併設した「健康の駅たまかわ」を拠点に、保健・福祉・医療が連携を深めながら、健康づくり・生活習慣病予防や介護予防を一体的に推進できるように歩んでいきます。



スポーツフェスタ



健康の駅たまかわ



ふれあいセンターでの交流事業

村民参加の村づくり

いざというとき頼りになる 子ども預かり事業

「おひさまサポート」のみなさん

たまには子どもを預けてリフレッシュしたい、急用ができたので保育所の送迎と一時預かりをお願いしたいなど、子育て中の母親や父親を支援するために平成18年にスタートしたのが「おひさまサポート」事業です。

この事業は子どもを預ける「お願い会員」と子どもを自宅で預かる「任せて会員」(女性労働協会による保育サポーター修了者)から成り、お願い会員に登録しておけば、いざというとき1人1時間600円で預かってもらえます。任せて会員のみなさんは「子育て世代を応援したいと思い、この有償ボランティアに登録しました。困ったとき少しでもお役に立てれば嬉しい」とこの仕事に責任とやり甲斐を感じておられるようです。



地域の清掃活動を通して 楽しく健康に暮らせる幸せを実感

「川辺老人クラブ百日紅会」のみなさん

毎月1日を清掃活動の日と決め、JR水郡線川辺沖駅周辺と円通寺、川辺公民館のゴミ拾いや草むしりなどを行っているのが「川辺老人クラブ百日紅会」のみなさんです。

「この清掃活動は、無人の川辺沖駅が設置された昭和30年代から続く地域の恒例行事。自分たちが使う場所は、自分たちの手でいつもきれいにしておきたいですからね。でも、単なる奉仕活動だけでは味気無いので、終わったら公民館に集まり、例会を兼ねてみんなでお茶を飲むんです。それがまた楽しくて待ち遠しいくらい」とみなさん。

毎月、参加できるのも健康であればこそ。この清掃活動を通して元気に、楽しく暮らせる幸せを実感されているようでした。



フラダンス教室



グラウンドゴルフ



歯科検診

豊かな人間性、 郷土を愛する心を育む村づくり



子どもたちが健やかに育ち
生涯にわたって学ぶ環境の整った
村を目指します

近

年の少子高齢化や核家族化、女性の社会進出や近所付き合いの希薄化などにより、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。本村では次世代を担う子どもたちが個性や能力を伸ばし、思いやりの心や郷土愛を育み、心身ともに健やかに成長できるように学校教育を充実させるとともに、学校・家庭・地域が連携を深めることで青少年の健全育成に努めます。

また、生涯学習では、公民館やたまかわ文化体育館を拠点に全ての住民に対して学ぶ機会とその成果を発表する場を提供するとともに、サークル活動の支援や文化イベントの開催などにも力を入れていきます。スポーツ活動では、たまかわ元気スポーツクラブやスポーツ少年団の活動を支援するとともに、たまかわ文化体育館や村民グラウンド、学校の体育施設などを活用したスポーツ振興を進めます。

さらに、本村の歴史や伝統文化を保護・継承していく活動にも力を入れ、子供たちの郷土愛を育み、人々の絆を深めるための地域づくりに活かしていきます。



バスケットボール



ソフトボール



英語教育

村民参加の村づくり

子どもからお年寄りまで楽しめる
「たまかわ元気スポーツクラブ」

「ラージボール卓球」のみなさん

平成15年に発足した「たまかわ元気スポーツクラブ」は、村民の健康維持・増進、交流や親睦、地域の絆づくりなどを目的に、地域住民が主体的となって運営している村独自のスポーツクラブです。

現在、会員は子どもからお年寄りまで300人を超え、フラダンスやバドミントン、フットサルや3B体操など、年齢や目的に合わせてさまざまなスポーツを楽しんでいます。

中でもラージボール卓球は、週1回のペースで行われている人気クラブのひとつで、「ここに通り始めてから体調もいいし、休憩時間におしゃべりするのも楽しい。できるだけ介護保険を使わずに済むよう頑張ります」と元気いっぱいのおみなさんでした。



明治時代から100年以上続く
川辺地区の伝統行事

川辺小学校の旗持ち登校

「旗持ち登校」は、川辺小学校の入学式の朝に毎年行われている伝統行事です。

始まりは明治9年とも、明治39年とも言われ定かではありませんが、子どもたちを楽しく登校させたいという思いと、新1年生を地域の人にお披露目する意味も兼ねて始まったようです。「現在は入学式の朝、タスキを掛けて旗を持った新1年生と全校生が川辺八幡神社を参拝してから登校する1日限りの行事に。でも、かつては方部ごとに旗を作り、全児童が歌を歌いながら旗持ち登校を1週間続けていたようです」と育成会のみなさん。

残念ながら平成26年度で川辺小学校は閉校となりますが、この行事だけは残したいと地域の人たちは存続の方向で検討しています。



流しそうめん



魚のつかみ取り



小学校運動会

魅力的で活力に満ちた村づくり

地域資源や地域特性を活かした
産業の振興で活気と魅力に
満ちた村を目指します

産

業の振興は活力ある地域社会を築くための大切な要素であり、本村が持続的な発展を遂げるために欠かせない重要な課題です。基幹産業の農業においては、本村の地の利を活かした農畜産物のブランド化や特産品の開発、販売網の拡充をJAやこぶしの里などの関係機関と連携しながら推進していくとともに、環境にやさしい農業への転換や担い手の確保、経営の効率化を積極的に進めていきます。また、森林機能の維持・管理にも力を入れ、林業の振興に努めます。

商業においては、経営の安定化に向けた取り組みを支援するとともに、買い物弱者にも対応した地域密着型の新たな商業の仕組みづくりやICT（情報通信技術）を活用した地元物産の販売促進や販路拡大などを進め、商業・流通の活性化を目指します。

工業においては、地域の活性化や雇用対策が期待できる企業誘致や既存企業の経営改善、地場産業との連携強化などを進め、観光においても、本村の自然や歴史、文化などを活かした魅力ある観光地づくりに努めます。



キュウリ農家



トマト農家



玉川工業団地

村民参加の村づくり

さるなしジュースやワイン、ジャムなど
村を代表する特産品に

「四辻サルナシ生産組合」のみなさん

中山間地に位置する四辻新田地区。かつては葉たばこの生産が盛んな地域でしたが、昭和の終わりから葉たばこの需要が激減。それに代わる作物を県や村と検討した結果、他にない特色あるもので、中山間地の四辻新田地区でも比較的、栽培しやすい作物として平成元年から導入したのがサルナシです。

「当初は苗木の雄と雌を見分けることもできず、試行錯誤の連続でした。でも、栽培技術の向上とともに村によるサルナシの特産品づくりが本格化。栽培農家も2軒から8軒に、年間生産量も1 t弱から10 tに増え、やっと軌道に乗ってきました」とみなさん。今後は安定数量を確保し、サルナシの知名度をアップさせることが目標です。



買い物に楽しみをプラスすることで
地元商店会を活性化

「玉川ポイントカード会」のみなさん

平成17年に商店会の活性化を目的に発足したのが「玉川ポイントカード会」です。

現在、加盟店は小売店を中心に16店舗。このカードをレジで差し出すと、100円の買い物ごとに1ポイントが印字され、350ポイントたまると500円分の金券として使うことができます。「以前からシールを集めて金券に換えるサービスは行っていましたが、カードに切り替えたことで子どもや若いお客さんの利用が増えました。このカードで集めた金券は、商店会が企画した日帰り旅行やゲートボール大会の参加費に充てることもでき、それを目標にためている方もいます。今後は加盟店を増やし、買い物にプラスαの楽しみがある商店会にしたいです」とみなさん。



玉川夏まつり



盆踊り



さるなし

時代の変化に的確に対応できる村づくり



住民と共に考え

協力し合うことで自律した
活力ある村を目指します

少

子高齢化や人口減少、住民の価値観の多様化や厳しい財政状況など、自治体を取り巻く環境が大きく変化中、これまで行政が担ってきた全ての事業を継続することは極めて困難であり、これからの行政運営には住民の参加が不可欠になっています。

本村では住民と行政が協力・連携・補完しながら村づくりを進めていけるよう、住民参加の仕組みづくりや「自分たちの地域は自分たちの手で」というコミュニティ活動の推進に努めるとともに、男女共同参画社会の普及や地域内交流・地域間交流を積極的に進めていきます。

また、地方分権が進む中、地方自治体は以前にも増して自らの判断と責任に基づく行政運営が求められています。

本村では自律した活力ある自治体として効率的かつ効果的な行政運営を行っていけるよう、さらなる行政改革に取り組みとともに、バランスの取れた財政計画のもと、歳出の抑制や合理化、健全な財政運営、安定的な財源確保などに努めます。



広報たまかわ



友好都市台湾鹿谷郷交流訪問



産業まつり

[行政] と [議会]

Administration

Assembly

村民と行政を結ぶ“掛け橋”を目指して



玉川村役場

玉 川村議会は、村民の代表として選出された12名の議員によって構成されており、年4回の定例会の他、臨時会を開き、条例の制定や改廃、予算の決定、決算の認定など、村政運営に欠かせない重要な案件の議決や請願・陳情についての審議を行っています。

さらに、専門的かつ効率的な審議を行うため、議会には2つの常任委員会があり、議員はいずれかの会に所属し、それぞれの分野で、より専門的に調査・研究を進めるとともに、議案・請願・陳情の審査などを行っています。



写真左から 教育長:富岡ケイ子、副村長:草野亀雄、村長:石森春男



写真左から 副議長:森 清重、議長:須藤利夫



たまかわMAP

玉川村の村名は、旧須釜村から旧泉村に流れている玉川(その後、泉郷川に変更)にちなんで命名されました。



福島空港



東野の清流



玉川村イメージキャラクター
山鳩のクックちゃん

玉川村の地勢

玉川村は福島県の南部、石川郡の北西部に位置し、東西に11.3km、南北に9.2km、面積が46.56km²です。

本村東部は阿武隈山地の西斜面で、西部は阿武隈川沿いに展開する、比較的平坦な土地です。気象的特徴としては、阿武隈山系特有の起伏の多い地形のため、標高による気象条件の変化が大きく、気温の年較差や日較差も比較的大きいなど気象的制約が多い地域です。

玉川村民憲章

玉川村の住民としての誇りと責任を持ち、美しい自然と伝統ある郷土を愛し、さらに活力に満ちた魅力ある村づくりを進めるため、この憲章を制定し実践します。

- 一、美しい自然と伝統を大切に、住みよい村をつくりましょう。
- 一、教養と文化を高め、心豊かな村をつくりましょう。
- 一、健康で楽しく働き、活力ある村をつくりましょう。
- 一、思いやりと連帯の心を養い、明るい村をつくりましょう。
- 一、広い視野と創意を持ち、飛躍する村をつくりましょう。

(昭和60年11月制定)



金毘羅桜

至須賀川市



空の駅たまかわ

至須賀川市



乙字ヶ滝



玉川村ふれあいセンター



道の駅たまかわ「こぶしの里」



たまかわ文化体育館



福島空港



た ま か わ 資 料 編

Tamakawa Village Data 2014



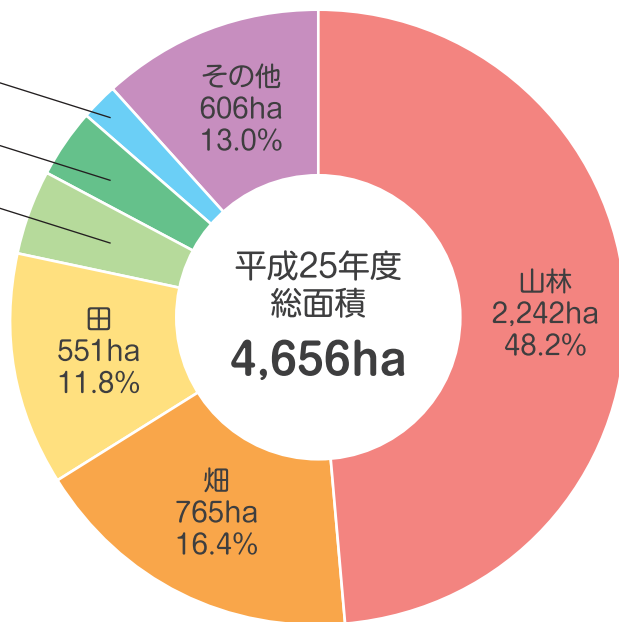
地勢・人口

■ 地目別土地面積

原野 96ha 2.1%

雑種地 166ha 3.6%

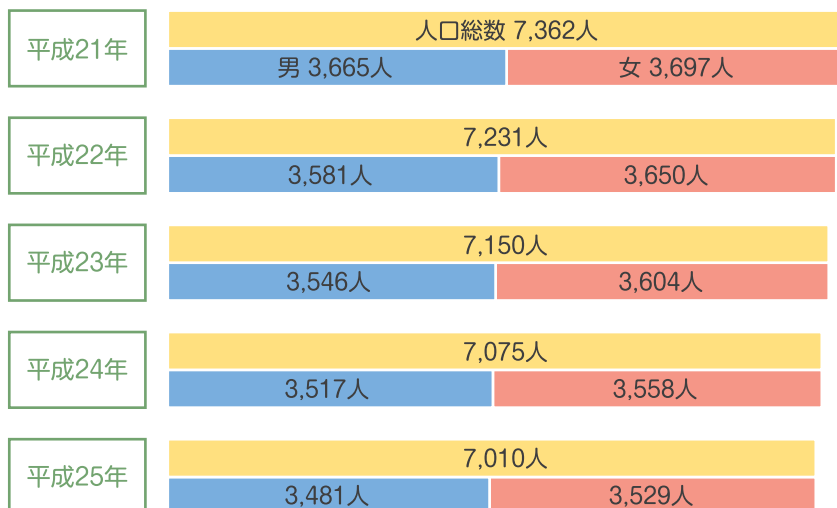
宅地 230ha 4.9%



■ 人口の推移

各年10月1日現在

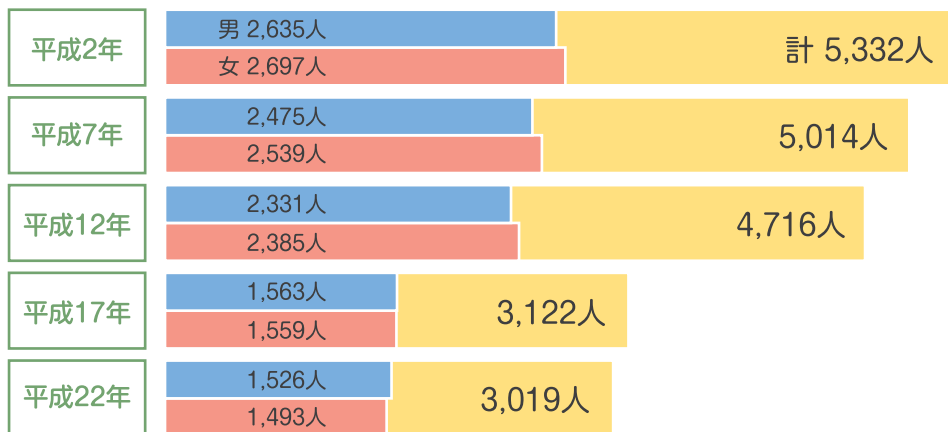
年次	世帯数	総人口	男	女
平成21年	2,010	7,362人	3,665人	3,697人
平成22年	1,923	7,231人	3,581人	3,650人
平成23年	1,944	7,150人	3,546人	3,604人
平成24年	1,965	7,075人	3,517人	3,558人
平成25年	1,990	7,010人	3,481人	3,529人



産 業

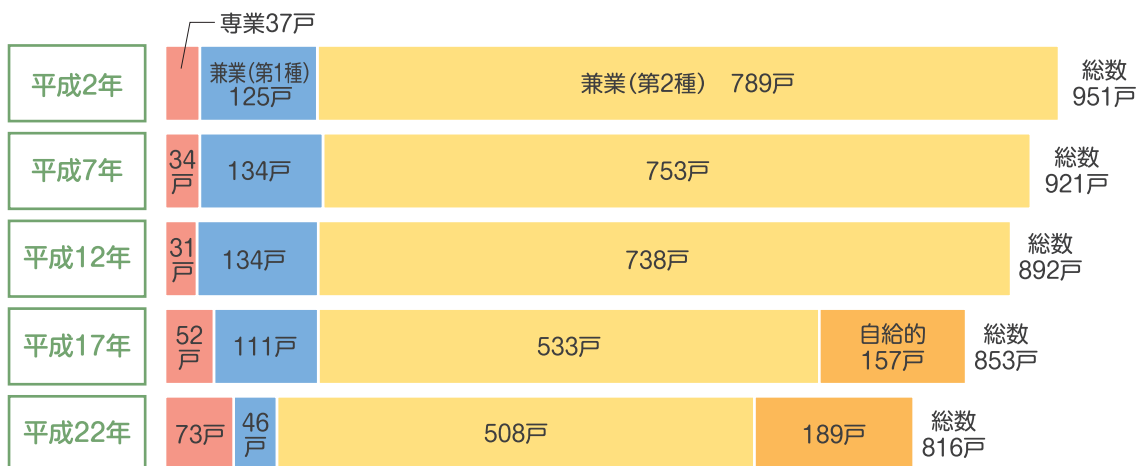
農家人口

各年2月1日現在 資料:世界農林業センサス



専業・兼業別農家数(総農家)

各年2月1日現在 資料:世界農林業センサス



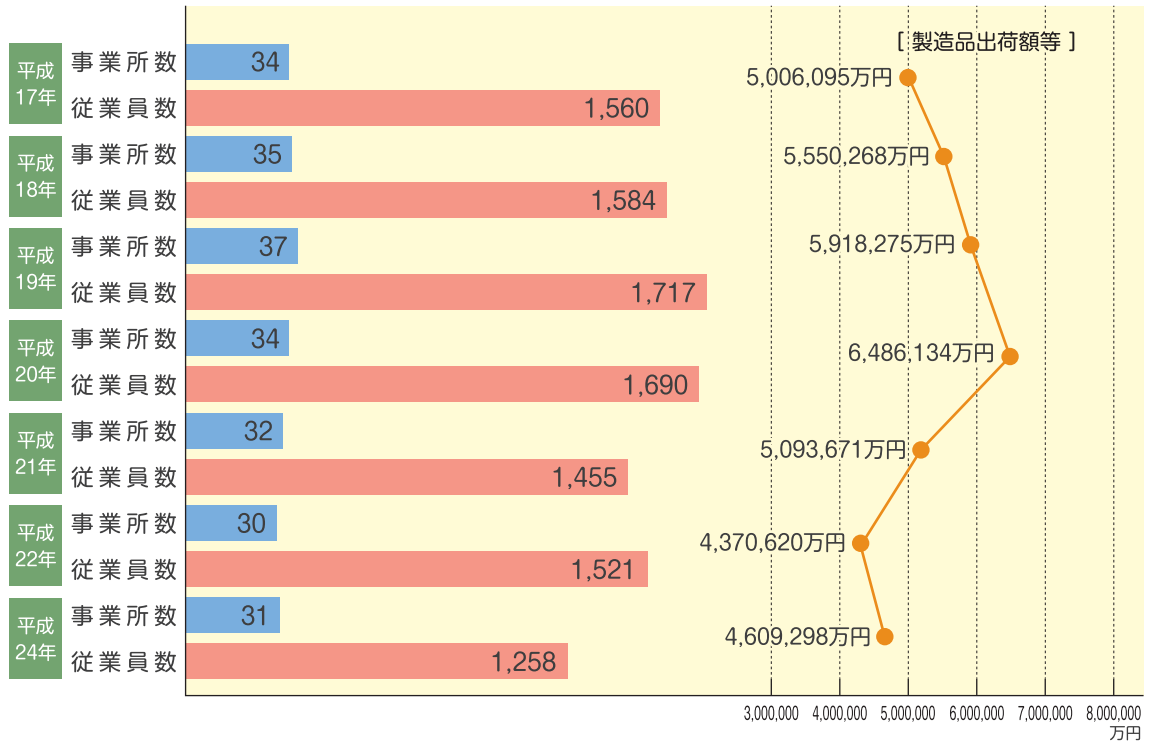
地目別経営耕地面積(販売農家)

各年2月1日現在 資料:世界農林業センサス

年次	耕地	田	畑			樹園地		
			普通	牧草専用	その他	果樹	桑	その他
平成2年	1,007ha	542ha	323ha	13ha	93ha	10ha	26ha	1ha
平成7年	861ha	518ha	246ha	15ha	56ha	19ha	5ha	2ha
平成12年	807ha	494ha	244ha	10ha	36ha	16ha	—	6ha
平成17年	697ha	474ha	162ha	12ha	33ha	16ha	—	—
平成22年	682ha	451ha	147ha	13ha	55ha	15ha	—	—

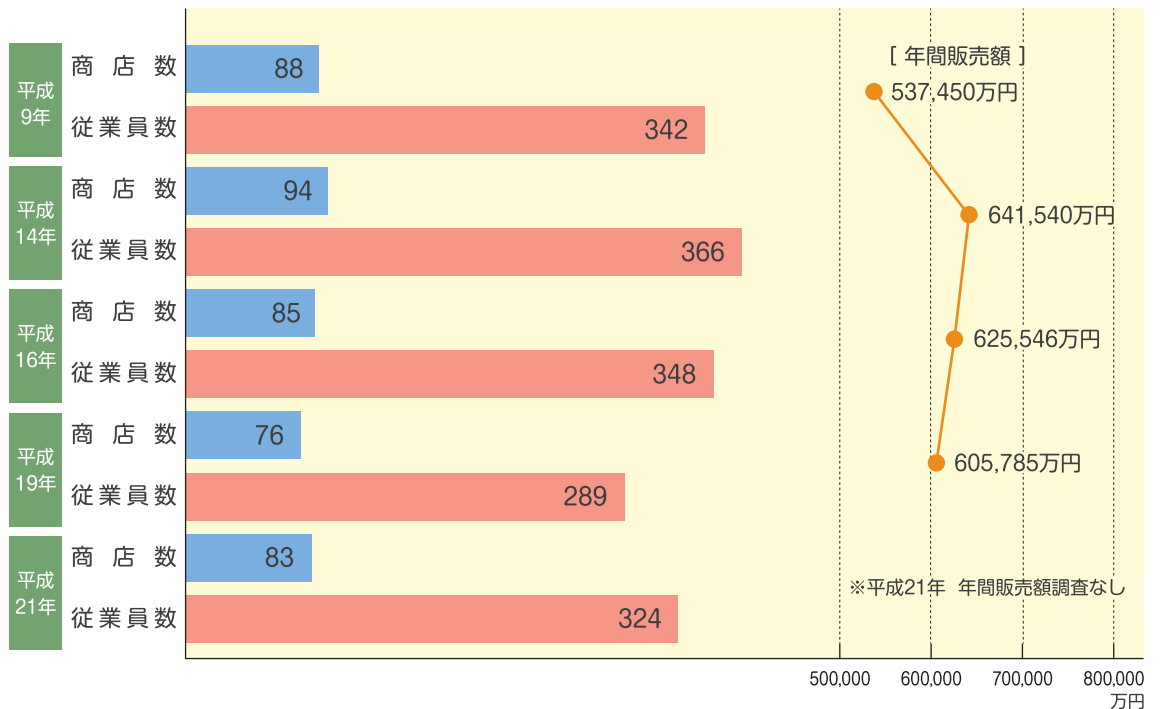
工業の推移

資料:工業統計調査(単位:人・万円) 各年12月31日現在



商業の推移

資料:商業統計調査・平成21年経済センサス基礎調査(民営) (単位:人・万円)



教 育

幼稚園の状況

(単位:人) 各年5月1日

年次	幼稚園名	学級数	園児数			教員数		
		計	男	女	計	男	女	計
平成21年	いずみ幼稚園	3	36	29	65	—	5	5
	すがま幼稚園	3	35	32	67	1	6	7
	合計	6	71	61	132	1	11	12
平成22年	いずみ幼稚園	4	63	36	99	—	9	9
	すがま幼稚園	3	38	40	78	1	5	6
	合計	7	101	76	177	1	14	15
平成23年	いずみ幼稚園	3	55	29	84	1	8	9
	すがま幼稚園	3	40	41	81	1	7	8
	合計	6	95	70	165	2	15	17
平成24年	いずみ幼稚園	3	42	36	78	1	7	8
	すがま幼稚園	3	30	38	68	—	8	8
	合計	6	72	74	146	1	15	16
平成25年	いずみ幼稚園	4	37	54	91	1	8	9
	すがま幼稚園	3	25	24	49	—	7	7
	合計	7	62	78	140	1	15	16
平成26年	いずみ幼稚園	4	35	52	87	1	8	9
	すがま幼稚園	3	19	20	39	—	6	6
	合計	7	54	72	126	1	14	15

小学校の状況

(単位:人) 各年5月1日

年次	小学校名	学級数	児童数			教員数		
		計	男	女	計	男	女	計
平成21年	玉川第一小学校	11	108	106	214	7	11	18
	川辺小学校	6	40	38	78	2	8	10
	須釜小学校	6	72	63	135	3	7	10
	合計	23	220	207	427	12	26	38
平成22年	玉川第一小学校	11	105	106	211	7	10	17
	川辺小学校	6	32	37	69	2	9	11
	須釜小学校	6	69	65	134	4	7	11
	合計	23	206	208	414	13	26	39
平成23年	玉川第一小学校	11	114	105	219	6	11	17
	川辺小学校	6	36	34	70	3	6	9
	須釜小学校	6	76	72	148	5	6	11
	合計	23	226	211	437	14	23	37
平成24年	玉川第一小学校	10	130	82	212	7	9	16
	川辺小学校	6	31	35	66	3	7	10
	須釜小学校	6	78	68	146	4	7	11
	合計	22	239	185	424	14	23	37
平成25年	玉川第一小学校	11	115	93	208	7	10	17
	川辺小学校	6	29	30	59	3	6	9
	須釜小学校	7	75	75	150	4	8	12
	合計	24	219	198	417	14	24	38
平成26年	玉川第一小学校	11	117	92	209	8	8	16
	川辺小学校	6	31	27	58	3	6	9
	須釜小学校	6	81	70	151	3	8	11
	合計	23	229	189	418	14	22	36

中学校の状況

(単位:人) 各年5月1日

年次	中学校名	学級数	生徒数		教員数			
		計	男	女	計	男	女	計
平成21年	泉中学校	7	75	85	160	7	7	14
	須釜中学校	5	48	37	85	7	6	13
	合計	12	123	122	245	14	13	27
平成22年	泉中学校	7	69	78	147	7	7	14
	須釜中学校	5	51	30	81	8	5	13
	合計	12	120	108	228	15	12	27
平成23年	泉中学校	7	67	69	136	9	6	15
	須釜中学校	4	38	24	62	7	4	11
	合計	11	105	93	198	16	10	26
平成24年	泉中学校	6	79	61	140	9	5	14
	須釜中学校	4	32	25	57	6	5	11
	合計	10	111	86	197	15	10	25
平成25年	泉中学校	6	81	63	144	9	6	15
	須釜中学校	3	33	33	66	6	5	11
	合計	9	114	96	210	15	11	26
平成26年	泉中学校	6	69	72	141	8	6	14
	須釜中学校	3	32	40	72	5	5	10
	合計	9	101	112	213	13	11	24

文化財

文化財

指定別	名称	種別	指定年月日	所在地
国指定	東福寺舍利石塔	史跡	昭和10年6月7日	南須釜(東福寺境内)
	石造五輪塔	重要文化財	昭和13年7月4日	岩法寺
県指定	川辺八幡神社のさかさ杉	天然記念物	昭和30年12月27日	川辺
	川辺八幡神社本殿一棟一間社流造、附棟札6枚	重要文化財	昭和34年3月17日	川辺
	東福寺木造業師如来立像、附木造両脇侍像、十二神将像	重要文化財	昭和48年3月23日	南須釜(東福寺境内)
	南須釜の念仏踊り	重要無形文化財	昭和50年5月30日	南須釜(東福寺)
	首藤石川文書二巻三十四通	重要文化財	昭和61年3月31日	中(首藤忠行所蔵)
	宮ノ前古墳	史跡	昭和63年3月22日	川辺
村指定	巖峯寺開山碑	有形文化財	昭和54年10月1日	岩法寺
	都々古別神社御正体懸仏二面	有形文化財	昭和62年6月1日	南須釜(都々古別神社)
	弘安供養塔婆一基	有形文化財	昭和62年6月1日	小高(佐藤忠氏宅地内)
	巖峯寺観音堂仁王門一棟	有形文化財	昭和63年12月20日	岩法寺
	巖峯寺観音堂仁王像二鉢	有形文化財	昭和63年12月20日	岩法寺
	巖峯寺観音堂木馬白一体	有形文化財	昭和63年12月20日	岩法寺
	巖峯寺開山和尚空谷禅師座像一鉢	有形文化財	昭和63年12月20日	岩法寺
	巖峯寺観音山阿彌陀三尊来迎板碑一基	有形文化財	平成2年6月27日	岩法寺
	長慶寺阿彌陀三尊来迎板碑一基	有形文化財	平成2年6月27日	小高(長慶寺境内)
	矢部家所有阿彌陀三尊来迎板碑一基	有形文化財	平成2年6月27日	川辺(矢部家墓地)
	仁戸内阿彌陀三尊来迎板碑一基	有形文化財	平成2年6月27日	北須釜(仁戸内阿彌陀堂内)
	川辺八幡神社 大杉	天然記念物	平成12年8月21日	川辺(八幡神社境内)
	大寺城跡(山頂部)本丸跡	有形文化財	平成12年8月21日	南須釜(都々古別神社境外地)
	東福寺銀杏木	天然記念物	平成12年8月21日	南須釜
	大雷神社社号大額(外縁金箔社名黒漆塗)	有形文化財	平成12年8月21日	小高(大雷神社内)
	大雷神社遷宮棟札	有形文化財	平成12年8月21日	小高(大雷神社内)
	銅製御正体鏡一面	有形文化財	平成18年3月17日	南須釜(都々古別神社)
	大般若経六百巻	有形文化財	平成18年3月17日	竜崎

社会福祉

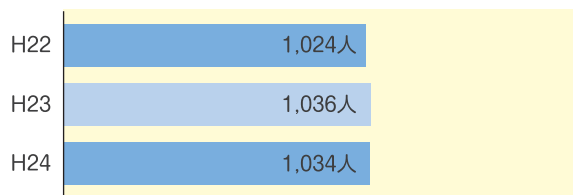
国民年金被保険者数・保険料

(単位:人・%・円)

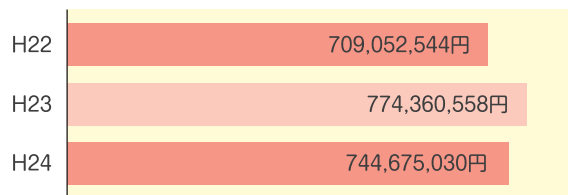
年度	総数	第1号被保険者		任意加入被保険者		第3号被保険者		1人当たり 保険料(年額)
		構成比	構成比	構成比	構成比			
平成15年度	1,807	1,438	79.5	1	0.1	368	20.4	159,600
平成16年度	1,798	1,424	79.2	1	0.1	373	20.7	159,600
平成17年度	1,803	1,432	79.4	1	0.1	370	20.5	162,960
平成18年度	1,752	1,368	78.1	1	0.1	383	21.9	166,320
平成19年度	1,659	1,284	77.4	3	0.2	372	22.4	169,200
平成20年度	1,640	1,277	77.9	5	0.3	358	21.8	172,920
平成21年度	1,640	1,268	77.3	7	0.4	365	22.3	175,920
平成22年度	1,537	1,166	75.9	7	0.4	364	23.7	181,200
平成23年度	1,485	1,116	75.2	7	0.5	342	23.0	180,240
平成24年度	1,390	1,060	76.3	4	0.3	326	23.4	179,760

後期高齢者医療給付状況

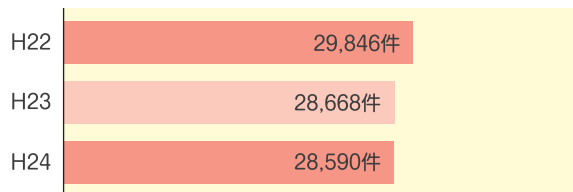
■対象者数



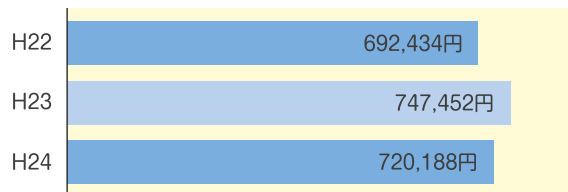
■給付費総額



■給付件数

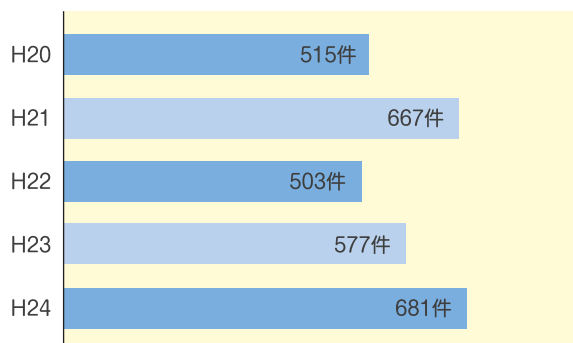


■1人当たりの給付額

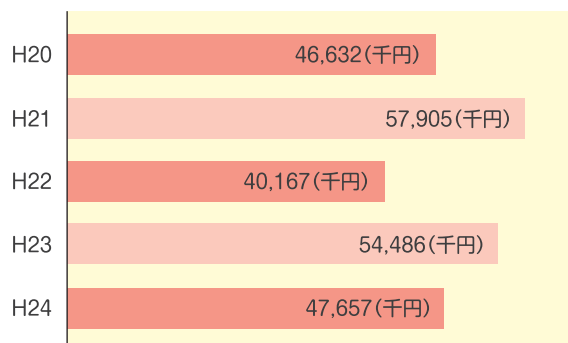


国民健康保険高額療養費支給状況(一般)

■件数



■高額療養費



保 健 ・ 衛 生

国民健康保険加入状況

(単位:世帯・%・人)

年 度	被保険者世帯数		被保険者数	
		加入率		加入率
平成21年度	1,054 (世帯)	51.71 (%)	2,190 (人)	29.79 (%)
平成22年度	1,048	51.02	2,165	29.75
平成23年度	1,059	51.18	2,150	30.01
平成24年度	1,062	51.08	2,123	29.96
平成25年度	1,062	49.81	2,001	28.35

国民健康保険給付状況

(単位:件・千円)

年 度	件 数	費用額	内 訳			
			保険者負担分	被保険者負担分	他法負担分	
					他法優先	国保優先
平成21年度	31,478	652,713	475,696	160,032	—	16,986
平成22年度	31,104	582,581	426,519	141,091	—	14,971
平成23年度	31,810	650,575	480,267	153,922	—	16,386
平成24年度	32,503	653,892	485,242	152,040	—	16,610
平成25年度	32,146	694,584	509,118	167,811	—	17,655

医療施設数

(単位:施設)

各年12月末現在
資料:県中保健福祉事務所

年 次	総施設数	病院数	医院・診療所数	歯科診療所
平成21年度	6	—	4	2
平成22年度	6	—	4	2
平成23年度	6	—	4	2
平成24年度	6	—	4	2
平成25年度	6	—	4	2

医療従事者数

(単位:人)

各年12月末現在
資料:県中保健福祉事務所

年 次	総 数	医 師	歯科医師	薬剤師	助産師	看護師	保健師
平成18年度	31	2	4	9	0	13	3
平成20年度	26	2	3	7	0	11	3
平成22年度	26	2	3	8	0	10	3
平成24年度	26	2	2	8	0	11	3

水道・建設

給水状況

年度	給水戸数(戸)	給水人口(人)	年間給水量(m ³)	1日平均給水量(m ³)	1日1戸平均給水量(m ³)	普及率(%)
平成21年度	1,706	5,512	590,713	1,618	0.95	84.2
平成22年度	1,694	5,621	600,522	1,645	0.97	82.5
平成23年度	1,705	5,536	647,465	1,774	1.04	82.4
平成24年度	1,719	5,556	648,242	1,776	1.03	88.9
平成25年度	1,725	5,480	627,570	1,719	1.00	88.6

河川の状況 (平成26年4月1日現在)

区分	河川名	村内延長(m)
一級河川	阿武隈川	8,900
	金波川	7,500
	泉郷川	5,720

区分	河川名	村内延長(m)
準用河川	泉郷川	2,500
	東川	5,100
	藤田川	800
	境沢川	1,500

国・県・村道別道路状況 (平成26年4月1日現在)

種別	路線数	実延長(km)	改良率(%)	舗装率(%)	
国道	1	7.5	100.0	100.0	
県道	7	27.6	57.7	96.5	
村道	303	194.1	74.6	81.7	
(村道内訳)	1級	10	21.6	99.8	99.8
	2級	11	12.5	93.6	100.0
	その他	282	160.0	69.7	77.8
計	311	229.2	—	—	

財 政

一般会計歳入決算

(単位:千円・%)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
村 税	714,143	695,010	745,466	746,610	693,716
地 方 譲 与 税	60,050	57,426	56,316	52,456	50,960
利 子 割 交 付 金	2,297	1,860	1,453	1,219	1,266
配 当 割 交 付 金	515	630	649	712	1,654
株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	247	175	134	166	2,237
地 方 消 費 税 交 付 金	69,713	69,593	68,910	68,428	67,844
特 別 地 方 消 費 税 交 付 金	0	0	0	0	0
自 動 車 取 得 税 交 付 金	10,246	9,843	8,191	13,296	12,526
地 方 特 例 交 付 金	9,202	11,768	10,788	1,992	1,690
地 方 交 付 税	1,383,895	1,565,093	1,817,260	1,561,856	1,545,829
交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	1,663	1,488	1,425	1,210	1,122
分 担 金 及 び 負 担 金	41,392	34,510	29,465	28,259	29,426
使 用 料 及 び 手 数 料	73,681	67,618	68,285	70,611	71,323
国 庫 支 出 金	470,007	284,876	385,984	275,803	339,442
県 支 出 金	163,886	179,317	582,542	448,849	353,431
財 産 収 入	3,862	7,192	28,941	28,105	6,204
寄 付 金	30,957	33,060	35,159	30,829	30,845
繰 入 金	7,890	2,576	11,223	197,167	263,443
繰 越 金	236,240	319,610	170,379	353,340	273,258
諸 収 入	23,489	45,451	39,559	73,342	47,567
村 債	301,400	352,700	273,600	226,800	220,200
合 計	3,604,775	3,739,796	4,335,729	4,181,050	4,013,983

一般会計歳出決算

(単位:千円・%)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
議 会 費	60,447	57,485	77,115	73,837	72,258
総 務 費	512,619	660,087	871,160	682,001	585,453
民 生 費	586,013	753,309	738,883	861,483	872,152
衛 生 費	370,228	340,655	372,203	390,266	469,251
労 働 費	22,504	31,039	25,763	55,284	81,313
農 林 水 産 業 費	249,425	241,022	250,483	293,702	320,056
商 工 費	25,505	32,892	28,090	28,264	31,035
土 木 費	221,698	155,051	168,284	226,038	239,255
消 防 費	192,003	171,243	193,694	162,781	185,754
教 育 費	438,050	589,665	355,594	540,833	483,170
災 害 復 旧 費	63,743	46,363	399,901	116,747	37,776
公 債 費	542,930	490,606	501,219	476,556	463,043
諸 支 出 金 他	-	-	0	0	0
合 計	3,285,165	3,569,417	3,982,389	3,907,792	3,840,516

村税決算

(単位:千円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
総 額	696,715	695,010	745,466	746,610	693,716
村 民 税	252,628	216,445	265,721	298,580	241,366
個 人	216,085	187,362	188,526	204,626	217,470
法 人	36,543	29,083	77,195	93,954	23,896
固 定 資 産 税	382,792	416,056	411,848	379,015	372,122
軽 自 動 車 税	16,986	17,268	17,505	18,116	18,140
村 た ば こ 税	44,309	45,240	50,276	50,762	61,949
入 湯 税	-	-	116	137	139
歳入総額に占める村税割合(%)	19.3	18.6	17.2	17.9	17.3
村税1人当たり負担額(円)	94,778	95,639	103,927	104,773	98,288



玉川村章

玉川村の頭文字「た」を図案化したもので、村民の和と協力によって明るく豊かな村づくりに着実に進む玉川村を象徴している。(昭和49年制定)

村のシンボル



村の花【山桜】

花王といわれる桜は、村の明るく豊かな村づくりを象徴。



村の木【赤松】

古来から長寿、節操を重んじる木として尊ばれ、村の弥栄を象徴。



村の鳥【山鳩】

鳩に三枝の礼あり、平和を重んじ、未来に羽ばたく村の飛躍発展を象徴。

玉川村勢要覧 2014

Guide to Tamakawa Village

〒963-6392 福島県石川郡玉川村大字小高字中畷9

TEL : 0247-57-3101(代) FAX : 0247-57-3952

<http://www.vill.tamakawa.fukushima.jp>

[企画・発行] 玉川村役場総務課